

中東情勢を踏まえた燃料油・石油製品の安定供給確保及び重要物資の安定的な供給確保の対応状況

令和8年4月30日

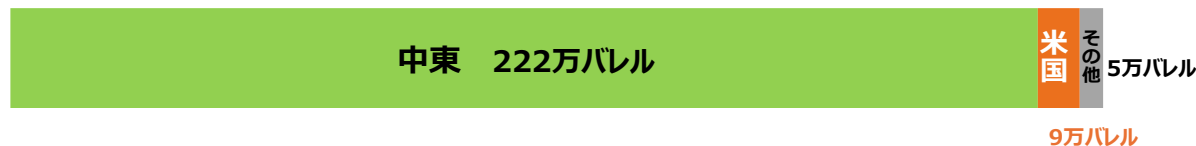
経済産業省

中東情勢に伴う重要物資の安定的な供給確保のためのタスクフォース

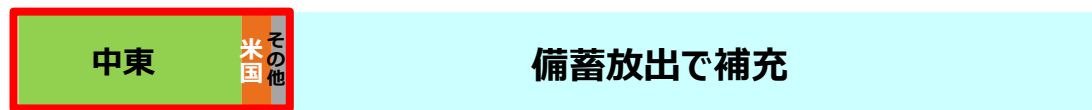
原油の代替調達の時時点の動向

- 原油について、5月は、現時点で、過半を超えて、約6割の代替調達の確保に目途がついたところ。中東や米国に加え、中央アジア、中南米、アジア太平洋からの原油も届く見込み。
- 仮に、「6月以降は5割しか代替調達が実現しない」という保守的な仮定を置いても、年を越えて日本全体として必要となる石油の量が確保できる見通しが立っているところだが、6月の代替調達についても、5月の水準を更に上回る水準を確保するべく、最大限取り組む。

2025年実績
日量236万バレル



4月調達分
(代替調達約2割
(日量約50万バレル)以上)



5月調達分
(代替調達約6割
(日量約140万バレル))



(注1) 4月30日時点。契約手続きが未了分を含む。原油タンカーの配船・運航状況等により、遅れが生じれば日本着が後ろ倒しになるため、月ごとの調達量には変動が生じうる。

(注2) 上記表示以外の詳細な国名やルートについては、民間企業の契約に関する事柄であることに加え、安全対策上の理由から非公表としている。

米国からの代替調達

- コスモ石油が3月22日（日）に米国テキサス州で原油を積んだ原油タンカーが、パナマ運河を經由して、4月26日（日）に日本（千葉沖）に到着。中東情勢悪化の後に調達・積載され、日本に到着する初めての米国原油を積んだタンカーとなった。
- 米国からは、5月に前年比約4倍まで調達が拡大する見込み（確定契約ベース）。

今回の原油輸送ルート



主要積出し港から日本までの距離を12knots（約22km/h）で走った場合の参考日数

千葉製油所

※千葉沖から海底パイプラインを通じて千葉製油所へ



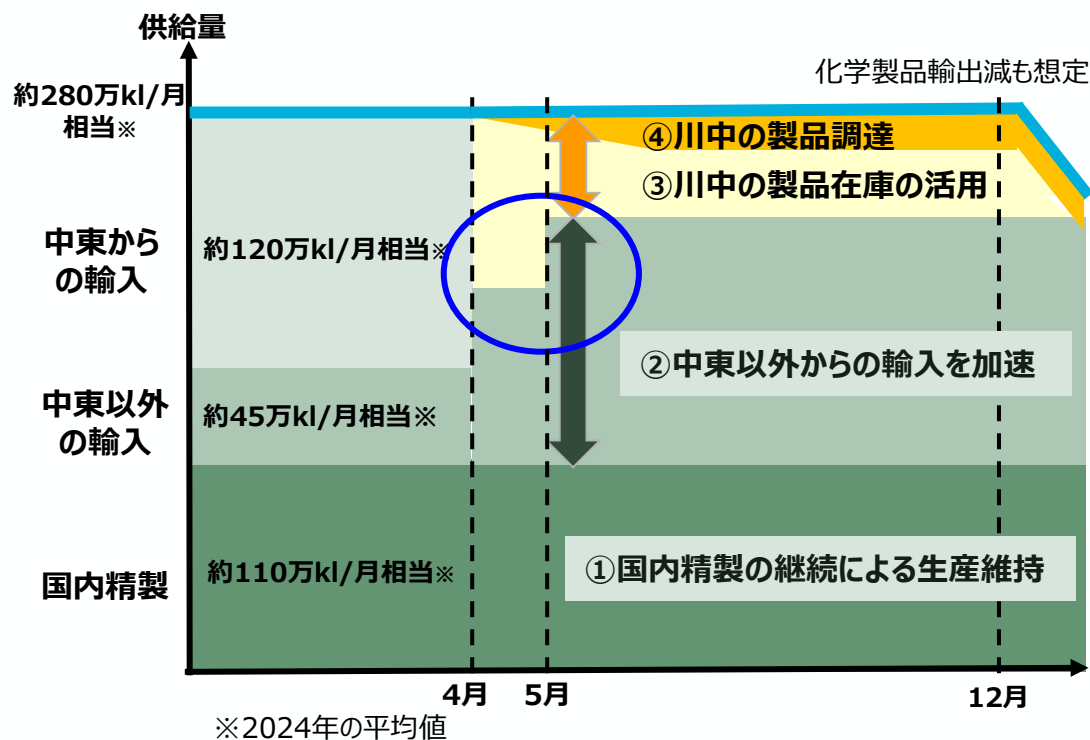
所在地：千葉県市原市
精製能力：21.4万バレル／日

出所：コスモ石油HP

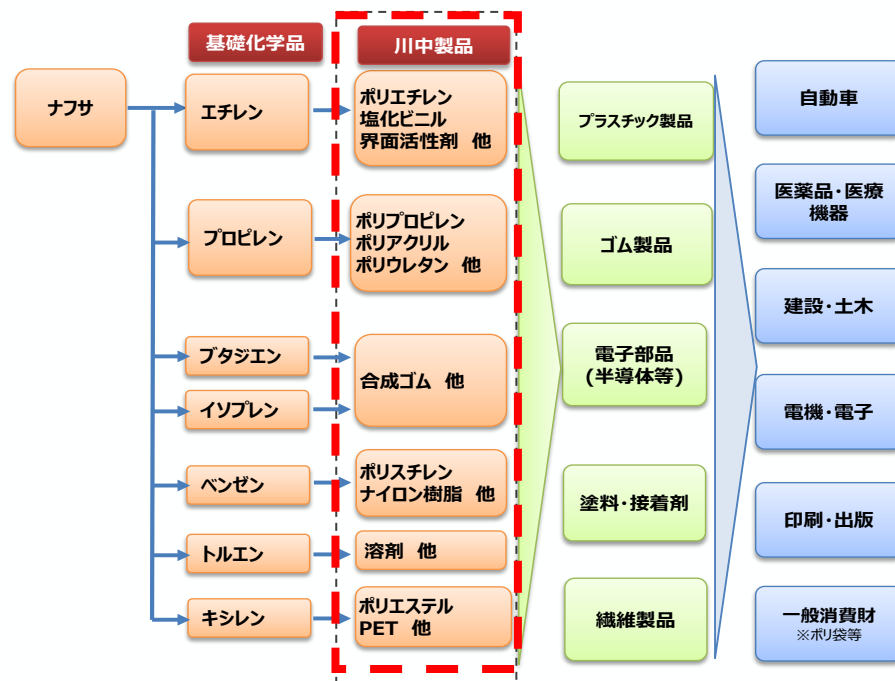
ナフサ由来の化学製品の需給見通し

- 国内でのナフサの精製を継続していることに加え、米国やアルジェリア、ペルーなど中東以外からのナフサの輸入が、中東情勢緊迫化の前の水準に比べると、5月には「3倍」（45万kl/月→4月90万kl→5月135万kl超）となる。これらの輸入ナフサは、5月にも日本に届く。
- また、ポリエチレンなどの中間段階の化学製品の足下の在庫は約1.8か月分となっており、これらをあわせると、ナフサ由来の化学製品の供給は、これまでの「半年以上」から更に伸び、年を越えて継続できる見込み。

化学製品の供給見通し（中東以外の輸入加速）



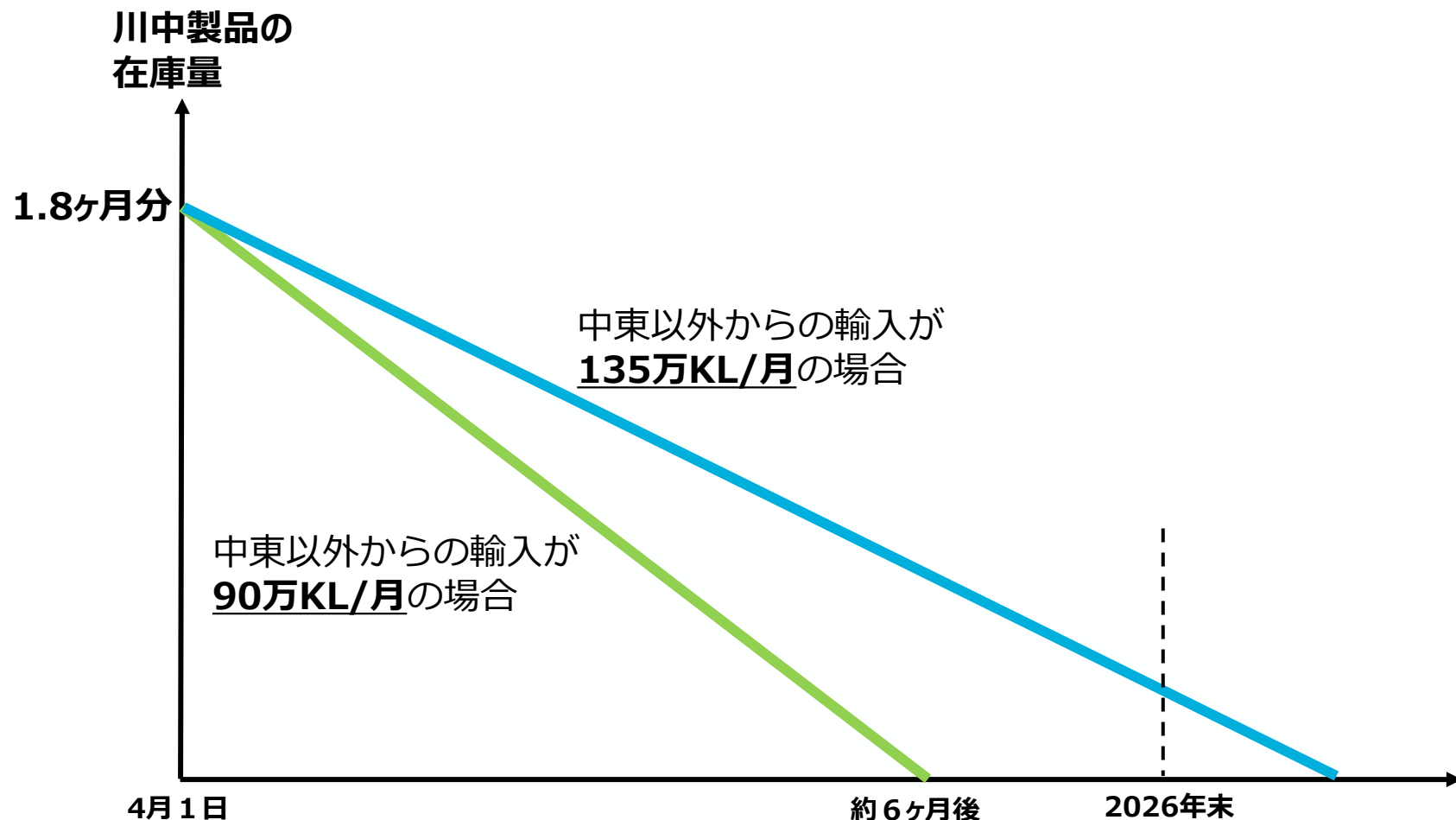
川中の製品在庫（1.8ヶ月分）



※各川中製品によって製品在庫の期間は異なるため、各川中製品の供給状況を注視の上、製品調達等も検討。

ナフサ由来の化学製品の需給見通し

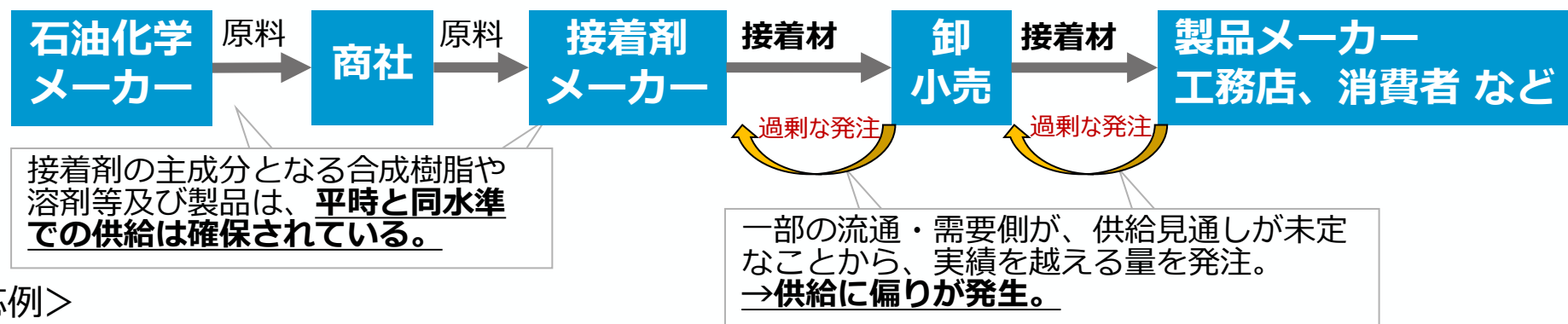
- 原料のナフサの中東以外からの輸入を更に加速することで、川中製品の在庫を活用して供給を確保できる期間は、年を越えて延長される見込み。



需要側の過剰な発注が流通の目詰まりに繋がった事例

- ①川上の供給量が足りている、②中間財メーカーも通常の量の供給が維持しているにもかかわらず、流通・需要側の一部が、普段よりも多く石油製品を発注した結果、中間財メーカーや卸小売の混乱を招き、「流通の目詰まり」に繋がった事例が見られる。
- 原油やナフサ由来の化学製品の供給が、「年を越えて」継続できることの理解を広め、前年同月同量を基本とした調達を行って頂くよう徹底的な周知・広報を進めていく。

<接着剤の事例>



<対応例>

①接着剤（3月下旬頃から過剰発注発生）

- ・ 4月20日、日本接着剤工業会から需要側に対して、①通常の事業活動に基づく適正な購買・在庫水準の維持、② 過度な先行発注や買い占め行動の自制等を協力要請。
 - ・ 4月21日、経産省・国交省から住宅・建材設備業界向けの説明会を開催。
- ⇒目詰まりを順次、解決。

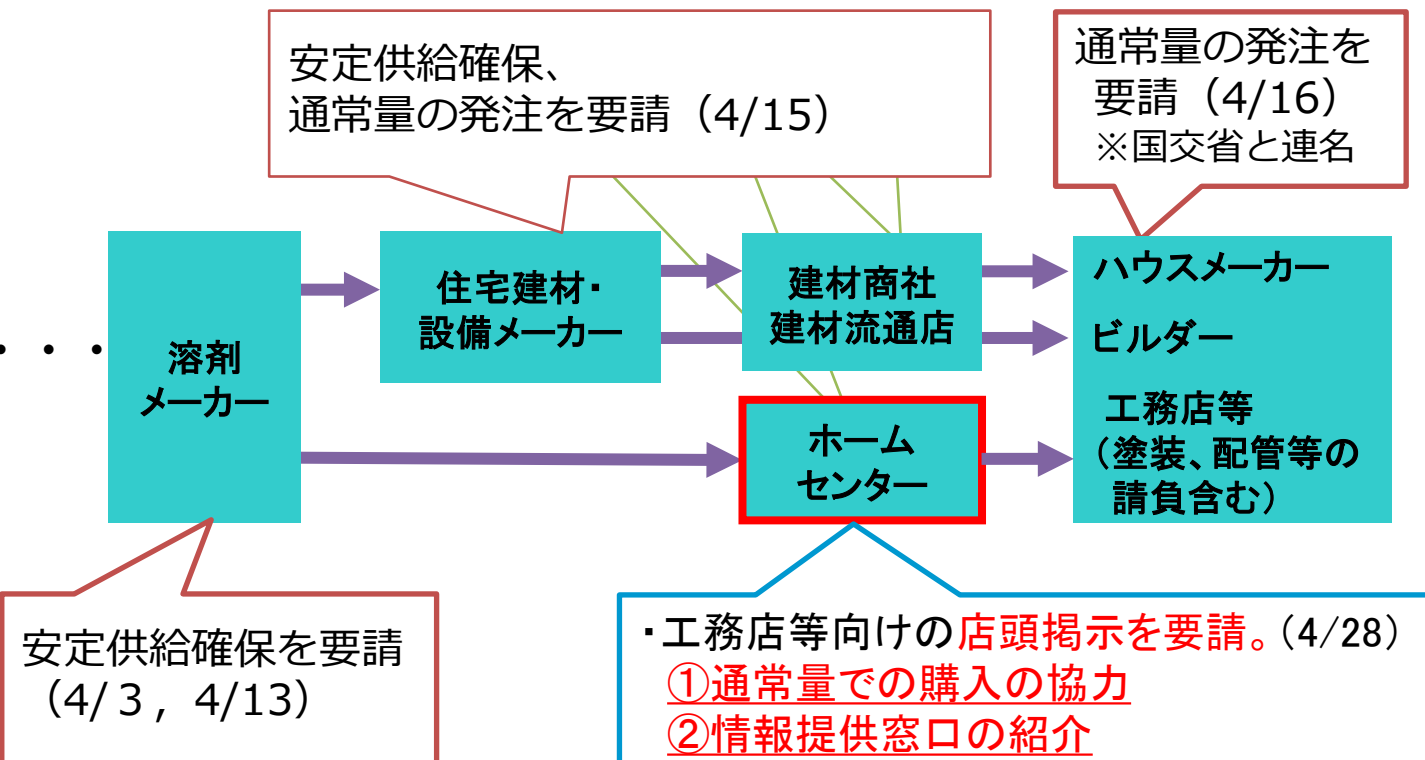
②潤滑油（3月下旬頃から過剰発注発生）

- ・ 4月17日、資源エネルギー庁から、元売事業者・潤滑油等事業者に対して、前年同月比同量を基本としつつ、3月に 前年同月比量を上回る水準を購入した流通事業者や需要家に対しては4月以降の供給量を調整し、供給を継続していただくよう要請。
- ⇒目詰まりを順次、解決。

ホームセンターにおける工務店等への協力依頼

- 個人事業者を含む工務店等が、円滑に住宅の新築・リフォームを行うためには、**サプライチェーン上の各プレイヤーが製品の安定供給や通常量の発注を行うことが重要**。これまで、サプライチェーンの各プレイヤーに働きかけを実施。
- 4月28日、経済産業省から日本DIY・ホームセンター協会に対し、工務店等がシンナー、塗料等を購入する**ホームセンターにおいて、①通常量での購入の協力、②情報提供窓口の紹介**を記載した店頭掲示（貼り紙）を要請。

＜工務店等を含むサプライチェーン（溶剤の例）＞



＜ホームセンターにおける貼り紙＞

令和8年4月28日時点版

中東情勢等を踏まえた、シンナー、塗料等の溶剤、住宅資材を購入予定の皆様へのお願い

シンナーや塗料、接着剤等については、日本全体で、**昨年とほぼ同量の供給を確保できています**ので、下記についてご協力をお願いします。



① 一時的な需給逼迫防止のため、**通常量の購入にご協力**をお願いします。

※商品の在庫状況は店舗により異なります。店舗に別途、購入に関する案内が掲示されている場合は、そちらもご確認ください。



② 調達についてお困りの場合は、QRコードの**経済産業省**（中東情勢関連対策ワンストップポータル）まで、**情報提供**をお願いします。



燃料の供給の偏り・流通の円滑化等への主な対応状況

令和8年4月28日時点

- 直接販売スキーム及び前年同月比同量の要請を元に、155件を解消。

医療関係

- カテーテルの滅菌工程に必要なボイラー用A重油について、供給確保
- 手術用器械などの医療機器を製造する際に必要な潤滑油について、新規に石油元売会社からの直接販売を実施【直販】
- 医療機器の素材製造に使用するA重油について、供給確保
- 錠剤製造の滅菌工程に必要なボイラー用灯油について、供給確保

交通 ・公共サービス関係

- 九州地方の路線バスの軽油について、供給確保
- 海底ケーブル敷設船の燃料となるA重油について、供給確保
- 下水処理施設の雨水ポンプの運転に必要なA重油について、供給確保
- 中部地方のし尿処理施設で使用するA重油について、新規に石油元売会社からの直接販売を実施【直販】
- 学校給食の製造に必要なA重油について、供給確保
- 離島向けフェリーの運航に使用するA重油について、供給確保【直販】
- 海洋調査の研究船の運航に使用するA重油について、供給確保

燃料の供給の偏り・流通の円滑化等への主な対応状況

令和8年4月28日時点

- 直接販売スキーム及び前年同月比同量の要請を元に、155件を解消。

農水畜産業関係

- 乳製品工場で使用するA重油について、供給確保
- 九州地方の茶製造に必要なA重油について、新規に石油元売会社からの直接販売を実施【直販】
- 大規模な農村地域における農業機械用のガソリン・軽油について、石油元売会社からの直接販売を実施【直販】
- 養殖用の稚魚や畜産用の飼料製造に必要なA重油について、供給確保
- 東海地方の茶製造に必要なA重油について、新規に石油元売会社からの直接販売を実施【直販】
- と畜場のボイラー稼働に必要なA重油について、供給確保

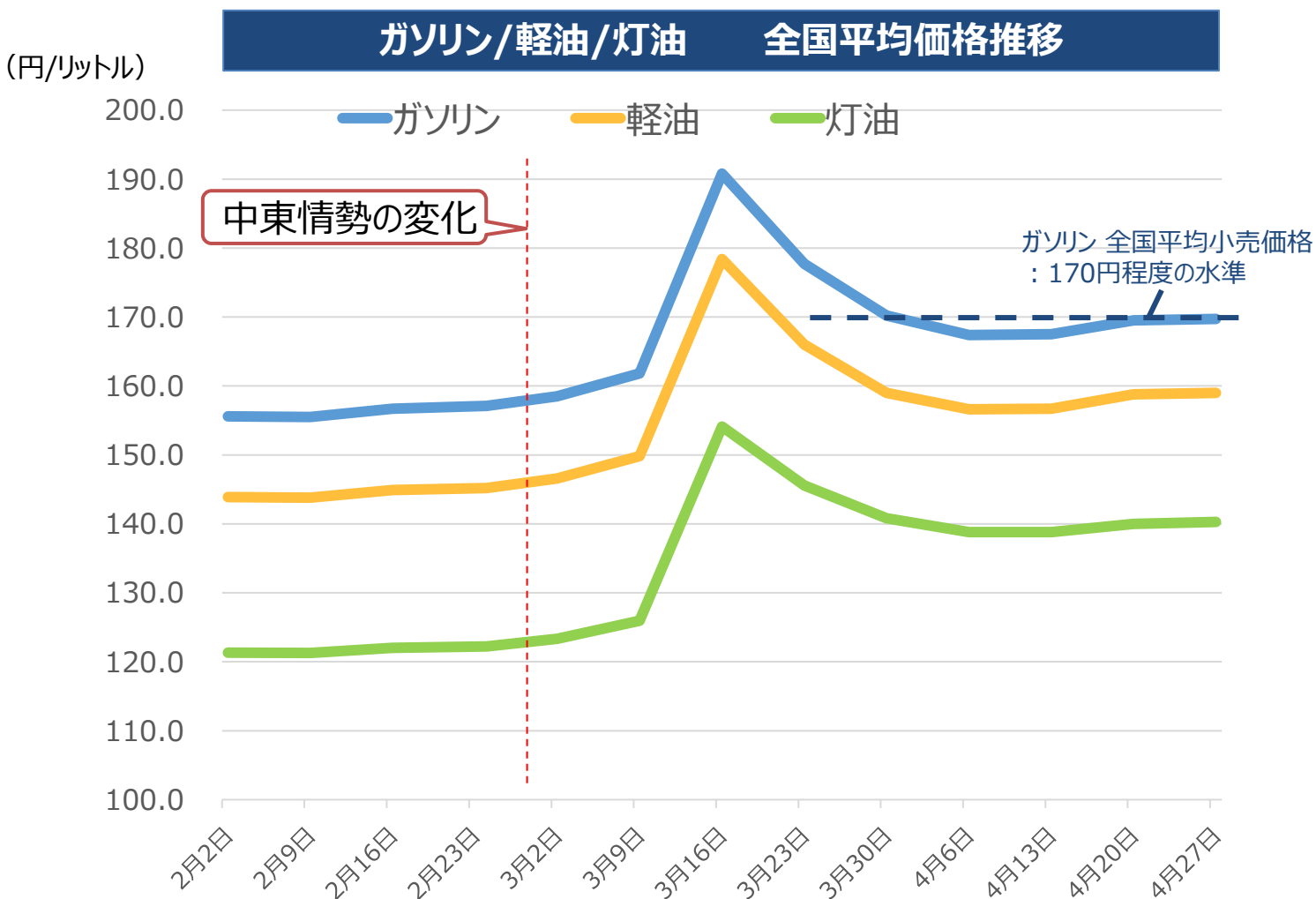
重要物資 製造業関係

- 半導体製造に必要なボイラー稼働に使用するA重油について、供給確保
- 電池製造に必要なボイラー稼働に使用するA重油について、供給確保

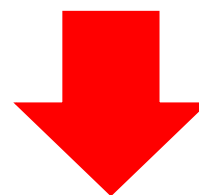
※下線は、4月23日時点からの更新箇所

緊急的な激変緩和措置について

- 緊急的な激変緩和措置を3月19日（木）から実施。
- ガソリン小売価格を全国平均で1リッター当たり170円程度に抑制するための補助を実施。
軽油、灯油、重油はガソリンと同額、航空機燃料はその4割を補助。
- これにより、制度開始前の3月16日（月）に**190.8円であったガソリンの全国平均小売価格は、170円程度**、
軽油、灯油もそれぞれ160円程度、140円程度の水準に低下。



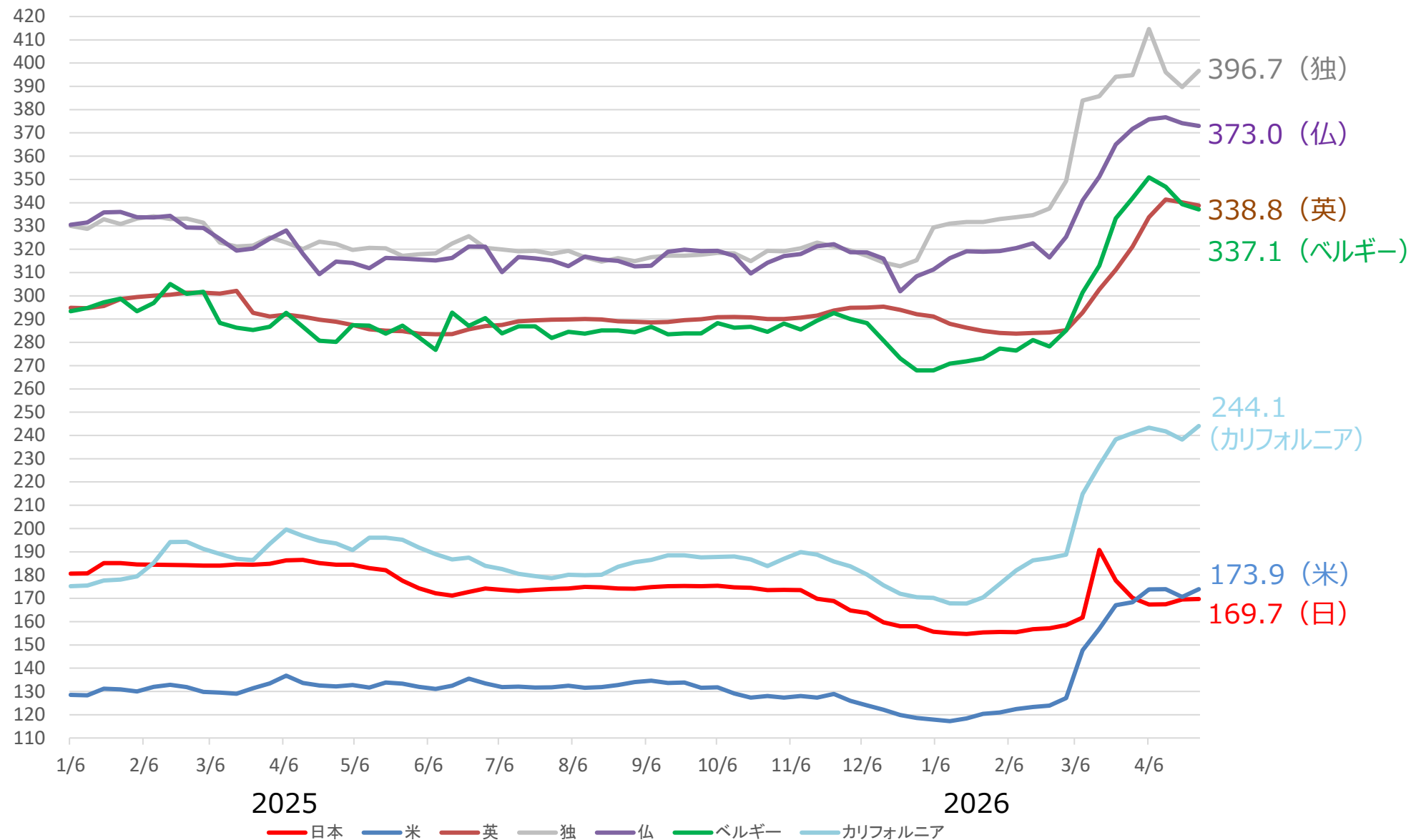
3月16日（月）	
ガソリン	190.8円
軽油	178.4円
灯油	154.1円



ガソリン	170円程度
軽油	160円程度
灯油	140円程度
の水準	

日米欧ガソリン価格比較 (4月27日(月)時点)

(円)



邦貨換算レートは、令和8年3月の平均TTS (三菱UFJ銀行) 1ドル= 159.68円、1ポンド= 215.82円、1ユーロ= 185.02円を使用。